

## 2021 年度 履修要項（学部）のポイント解説（用語集）

「履修要項」を読む手助けとして、用語の解説をしながら、大学の履修の考え方について説明します。文中の頁数は「履修要項 2021」を参照してください。また、課程の具体例については、一例として応用生物学課程の該当頁数を示します。他課程の方は、該当する同様の頁を参照してください。（3年次編入生は2019年の履修要項に従います）

単 位	受講登録	卒業要件
<p>授業に合格すると、定められた数の単位が与えられる。通常、<b>90分15週</b>の講義科目で<b>2単位</b>が与えられるが、語学や演習科目では<b>1単位</b>であり、科目によって単位数は異なる（p.3）。各科目の単位数は「<b>教科課程表</b>」（p.14、p.25、p.33など）に記されている。授業時間だけでなく、<b>自宅学習</b>を含めて<b>1単位45時間</b>の<b>学修時間</b>が求められる。</p>	<p>大学が高校と異なるのは、<b>クラスと時間割が最初から与えられるのではなく、<u>学生自身が設定する点</u></b>である。4年間で卒業要件に到達するように、<b>1年間に2回、前学期と後学期に分けて、履修する授業を決めて、時間割を組み立てる。決められた期間内に履修したい授業を学務課のシステムに登録すれば、受講資格が与えられる。</b>自分のIDにより学外から休日でも登録できる。</p>	<p>卒業のためには最低<b>134単位</b>が必要である。授業科目は、大きな分類として、<b>全学共通科目と専門教育科目</b>（p.3）に分けられ、さらに小さな区分に分けられる。区分ごとに必要単位数が決められ、各課程の「卒業認定に必要な単位数」の表（p.46など）あるいは「科目履修の流れと卒業要件」（p.42-43など）に示されている。一般プログラムと地域創生 Tech Program ではその条件が異なるので、注意すること。</p>

全学共通科目	専門教育科目	卒業研究履修要件
<p>卒業のためにはこの区分で最低<b>34単位</b>が必要である。34単位のうち<b>最低12単位</b>は言語教育科目から履修する。12単位のうち<b>英語の必修科目6単位</b>を取得する。TOEICなどの外部テストの成績や語学研修は評価によって英語の単位に振り替えられる（p.11-13）。34単位のうち<b>最低22単位</b>は人間教養科目から履修する。p.22-24を参考にしてください。</p>	<p>卒業のためにはこの区分で最低<b>90単位</b>が必要である。さらに、「<b>専門導入科目</b>」と「<b>専門基礎科目</b>」と「<b>課程専門科目</b>」の3区分に分けられる。<b>1年生は主として、前者2区分を受講し、学年とともに、課程専門科目に移行する。</b>区分ごとの必要単位数は課程ごとに異なる。とくに課程専門科目の<b>選択必修科目の要件は複雑な課程もあるので、注意すること。</b></p>	<p>4年次生で卒業研究を受講するためには一定の単位取得条件が必要となる。「<b>卒業研究又は卒業プロジェクト研究履修のために必要な単位数</b>」（p.47など）に示した条件を満たさねばならない。1単位でも足りなければ留年となり、4年間では卒業できない。一般プログラムと地域創生 Tech Program ではその条件が異なるので、注意すること。</p>

必修科目	選択必修科目	カリキュラムツリー
<p>必修科目とは、その区分の中で必ず履修しなければならない科目で、「教科課程表」(p.14 など)や「科目履修の流れと卒業要件」(p.42-43 など)では●印で示される。必修科目の単位を取得しなければ、区分ごとの単位数の合計が足りていても、卒業は認定されない。言語科目の中では英語 6 科目が必修科目である。また、専門科目では多くの課程が実験・実習を必修科目としており、卒業研究履修のためには3年次終了までにすべて取得しなければならない。</p>	<p>選択必修科目とは、ある区分の中で指定された科目群であり、その科目群の中から決められた単位数を取得しなければならない。各課程の「教科課程表」(p.33-など)あるいは「科目履修の流れと卒業要件」(p.42-43 など)では☆印で表される。選択必修科目は課程やプログラムによって異なる。<b>欄外の注意事項</b>もよく読むこと。</p>	<p>各課程では、専門教育科目の流れを示す、いわゆる「カリキュラムツリー」が作られている(例 p.40)。多数の専門教育科目のつながりを示すものであり、関連科目どうしは、基礎的な内容から専門的な内容への流れを示す。履修する場合は、上流の科目を合格したあとに、下流の科目を受講するようにする。</p>

シラバス	時間割表	クラス配当表
<p>授業の目的・概要、学習目標、15回分の授業の内容、教科書・参考書、成績評価の方法や基準などを示したのがシラバスである。本学では、IDなしで検索できるシラバス検索システムがHPで公開されている。教科書などを早めに購入して予習に役立てることができる。</p>	<p>履修要項とセットで、受講登録に欠かせないものである。該当授業が開催される曜日・時限・講義室が記載される。学年ごと、学期ごとに作成される。新入生(1年次生)は1年次前学期の時間割表を見る。受講生は時限ごとに講義室を移動することになる。<b>同じ時間帯にある複数の講義は登録できない。</b></p>	<p>例えば Interactive English A は a から ag まで 33 クラスある。時間割では水曜から金曜の 3 時限と 4 時限に分かれて配置されている。しかし、<b>登録するクラスは学生番号によって決められている</b>。そのクラス分けが書かれたのがクラス配当表である。<b>科目名の後にアルファベットがある場合には、自分のクラスを確認してから登録すること。</b></p>

キャップ制	受講登録の確認・修正	履修の中止
<p>1 単位につき自宅学習もふくめて 45 時間の学修時間が必要という考え方から、本学では、<u>1 年間に受講登録できる単位数に 50 単位</u>という上限を設けている (p.5)。このキャップ制は合格した科目の単位数ではなく、登録した科目の単位数で計算される。前学期に授業科目を多く登録しすぎた場合、後学期では登録科目数が制限されるので、4 月には計画的に登録してください。</p> <p><u>なお、3 年次編入生にはキャップ制は適用されません。</u></p>	<p>受講登録を確定する前に、学生本人がログインして、受講登録が希望通りに正しく行われたかを確認し、必要な修正を行える期間が設定されている。この期間は 2, 3 日間しかない。これを逃すと、追加、修正は行えないので、その期間を学務課 HP で必ず確認すること。</p>	<p>必修科目や実験・演習など、決められた科目を除いて、決められた期間に履修中止を申し出ることができる (p.6)。その場合、成績閲覧システムには「W」と表示されるが、GPA の計算には含まれない。<u>履修中止した科目のうち 5 単位を上限として、キャップ制の対象から除く</u>ことができる。要するに、むやみやたらに登録してあとで中止しておけばいいということを防ぐためである。</p>

三大学教養教育共同化科目	試験と不正行為	成績評価と GPA
<p>京都府立大学と京都府立医科大学と連携して、稲盛記念会館において、お互いの教養教育の講義を聴ける機会を作っている。月曜の午後 3～5 時限に、各学期約 40 科目が提供される。各時限につき第 1 希望から第 5 希望まで履修科目の希望を出せるが、受講できるかどうかは抽選となる。抽選結果の発表日は決まっているので、注意してください。</p>	<p>学期末に定期試験期間が設けられる。2 週間前に試験の時間割が発表される。科目によっては、ノートや電卓などの持ち込みが許される場合があり、事前に掲示される。それ以外のものを持ち込んだり、利用した場合には、その場で不正行為と認定される。スマートフォンや携帯の持ち込みは論外である。不正行為を行った場合は、履修規則により、その学期に登録したすべての科目が不合格となる (履修規則 23 条、p.164)。また、懲戒の対象ともなる。</p>	<p>成績は p.7-8 にあるように、60 点以上が合格で、5 点刻みで上位から S、A+、A、B+、B、C+、C として表示する。不合格は F である。また、その区分に対して、4 点から 0 点まで 0.5 点刻みでポイントが付けられる。すべての科目のポイントの合計を総登録単位数で除した数値を GPA (Grade Point Average) という。この GPA は学生個人の学業成績を示す指標として、いろんな場面で利用される。</p>